

福祉従事者の基本的視点①

令和7年5月28日 山梨県立文学館講堂

(社福) 聖ヨハネ会

富士聖ヨハネ学園 (生活介護・施設入所)

管理者 平賀久二仁

この講義のねらい

福祉従事者の基本的視点①と②

- ① 個別性の重視
- ② 生活者視点、QOLの重視、
- ③ 本人主体、本人中心
- ④ 自己決定（意思決定）への支援、セルフケアマネジメントの支援、
- ⑤ エンパワメントの視点、ストレングスへの着目
- ⑥ 権利擁護
- ⑦ 多職種連携・チームアプローチ、
- ⑧ 地域づくり（コミュニティワーク）

※福祉従事者の基本的視点①では①②③⑤について話をさせていただきます。

講義の趣旨

- 私たちはソーシャルワーク活動を担っている。
- 何のために相談援助をするのか？
- 何を心掛ければ良いのか？
- 基本となる視点とは何か？

われわれはソーシャルワーク活動を行う

- 「相談支援の質の向上に向けた検討会」における議論で、改めて相談支援専門員がソーシャルワークの担い手として期待されていると示された。
- ソーシャルワークは、社会福祉活動全般を指す。
もう一つの意味は対人援助を通して、環境への様々な働き掛けを行い、利用者の社会生活を充実させていく社会福祉援助技術である。
- ソーシャルワーク専門職のグローバル定義には、「社会変革と社会開発、社会的結束、および人々のエンパワメントと解放を促進する」とある。

サービス管理責任者や相談支援専門員は、利用者に寄り添うのであり、利用者の人生を主導するものではない。

ソーシャルワークの歴史

久保紘章・副田 あけみ（2005）

「ソーシャルワークの実践モデルー心理社会的アプローチからナラティブまで」北海道：川島書店

● 1950年代以前（第1期：診断から意思・機能へ）

- 診断や症状を重視した「診断主義アプローチ」を批判するかたちで、相談機関の機能とクライアントの〈意思の尊重〉を重視する「機能派」が台頭
- 1950年代には、診断派と機能派の両者の折衷により「問題解決アプローチ」。

● 1960年代（第2期：個人から社会へ）

- 解放運動が活発化し、社会問題としての生活問題を個人のパーソナリティ問題に還元してしまいがちなソーシャルワークが、社会的解決を求めるクライアントを抑圧しているという批判がなされた。
- ①心理社会的アプローチ、②問題解決アプローチ、③機能派アプローチ、④行動修正アプローチ、⑤家族療法、⑥危機介入、⑦成人の社会化といった多様な実践モデルが乱立。

● 1970～1980年代（第3期：部分・単線から全体・複線へ）

- 生態学やシステム論に基づき、クライアントや、クライアントの置かれている状況を全体的・統合的に把握し、問題を直線的な因果関係で捉えるのではなく、諸要因の関係性の問題として捉えるソーシャルワーク論が登場し、主要な潮流となった。
- ゴールドシュタイン「一元化アプローチ」、ピンカスとミナハン「統合理論」、ジャーメインやギッターマン「生活モデル」、メイヤーやジョンソンらのエコシステム論に基づき、問題のアセスメントを重視するジェネラリスト・アプローチ。

● 1990年代（第4期：客観的評価から主観的な体験に基づく支援へ）

- ジェネラリスト・アプローチを補完する形で、フェミニズム・アプローチ、ストレングス・アプローチ、解決指向モデル(ソリューション・フォーカスト・モデル)、エンパワメント・アプローチ、ナラティブ・アプローチなどが発展。
- 共通しているのは、クライアントという当事者の力・強みを尊重し、当事者による問題の定義付けや、状況の意味付け、目標の設定を重視する点にある。

何のために相談援助をするのか？

- ソーシャルワークの目的は「一人ひとりの福祉（幸福）が実現される社会をつくること」にある。
- 私たちは、障害のある人とその周辺の幸福の実現を共に目指すことが使命である。
- 利用者のエンパワメントと権利擁護の達成を目的とした活動である。
- よって、すべての障害者を対象としておらず、パワーレスな状況にある者に焦点を当てて、そこに向き合い、ともに考え、権利侵害の状況から抜け出すことを支援する。

何を心掛ければ良いのか？

- 「ソーシャルワーカーの倫理綱領」には、ソーシャルワーク専門職のより所が明確に規定されている。

ソーシャルワーク専門職は、人間の福利（ウェルビーイング）の増進を目指して、社会の変革を進め、人間関係における問題解決を図り、人々のエンパワーメントと解放を促していく。ソーシャルワークは、人間の行動と社会システムに関する理論を利用して人びとがその環境と相互に影響し合う接点に介入する。人権と社会正義の原理は、ソーシャルワークのより所とする基盤である。

何を心掛ければ良いのか？

「障害者ケアガイドライン」がその姿勢を示す。

障害者への生活支援の重要な視点

- (1) ノーマライゼーションの実現に向けた支援
- (2) 自立と社会参加の支援
- (3) 主体性、自己決定の尊重・支援
- (4) 地域における生活の個別支援
- (5) エンパワメントの視点による支援

障害者への生活支援の重要な視点①

1) ノーマライゼーションの実現に向けた支援

- ノーマライゼーションの実現に向けて、障害のある人もない人も、だれもが住み慣れた地域社会で普通の生活を営み、活動できる社会を構築することを目指す。そのためにも障害者の地域生活支援をとおして、地域住民が積極的に障害者を支える仕組みをつくることも重要である。

ノーマライゼーションとは？

「社会で日々を過ごす一人の人間として、障害者の生活状態が、障害のない人の生活状態と同じであることは、障害者の権利である。障害者は、可能な限り同じ条件のもとに置かれるべきであり、そのような状況を実現するための生活条件の改善が必要である」



当時、デンマークの社会省担当官であったニルス・エリク・バンクーミケルセン。彼は、隔離的保護的で劣悪な環境の巨大施設に収容されている知的障害児者の処遇の実態に心を痛めていました。

ノーマライゼーション 8つの原理

- 社会の主流となっている規範や形態にできるだけ近い、日常生活の条件を知的障害者が得られるようにすること（1969年、ベンクト・ニリエ）
- 生活リズムやサイクルに関する原理
 1. 一日のノーマルなリズム
 2. 1 週間のノーマルなリズム
 3. 1 年間のノーマルなリズム
 4. ライフサイクルにおけるノーマルな体験
- 経済、環境、自己決定など成文化した原理
 5. ノーマルな要求と自己決定の尊重
 6. 異性との生活
 7. 一般市民と同じ経済水準
 8. ノーマルな環境水準



障害者への生活支援の重要な視点②

2) 自立と社会参加の支援

- 障害者の自立は、一人ひとりが責任ある個人として主体的に生きることを意味し、障害者ケアマネジメントは、自立した生活を目指し、社会経済活動への積極的な参画を支援する。

『自立した生活』って何でしょう？

- 他の援助や支配を受けず、自分の力で判断したり身を立てたりすること。
ひとりだち。（広辞苑）

- <世界初の障害者情報誌『リハビリテーションギャゼット』より>

「自立（生活）とは、どこに住むか、いかに住むか、どうやって自分の生活をまかなうか、を選択する自由をいう。それは自分が選んだ地域で生活することであり、ルームメートを持つか一人暮らしをするか自分で決めることであり、自分の生活一日々の暮らし、食べ物、娯楽、趣味、悪事、善行、友人等々ー すべてを自分の決断と責任でやっていくことであり、危険を冒したり、誤ちを犯す自由であり、自立した生活をする
ことによって、自立生活を学ぶ自由でもある。」

障害者の自立とは…

他の援助を受け(ながら)、支配を受けず自分の力で判断したり身を立てたりすること。

良いことも、悪いことも、危険をおかすのも、失敗をするのも＝自立。

先回りをせず、時には見守りながら、その方の隣で支援をしていきましょう。

☆自立とは依存先の分散である

乳幼児期は家族に依存しなければ生きられないが、大人になるにつれて 依存先（学校・事業所・施設等）を増やして自立していく。



障害者への生活支援の重要な視点③

3) 主体性、自己決定の尊重・支援

- 障害者のニーズに対応したサービス提供は、一人ひとりの考え方、生活様式に関する好み等を尊重しながら、リハビリテーションの理念からも、本人が自分の能力を最大限発揮できるように支援することが必要である。サービス提供のすべての過程において、利用者の積極的な関りを求め、利用者と情報を共有し、利用者（必要に応じて家族又は利用者が信用する人）が望むものを選択し、利用者（必要に応じて家族又は利用者が信用する人）の自己決定に基づき実施することが重要である。

☆ 福祉従事者は、利用者に寄り添うのであり、利用者の人生を主導するものではない。

障害者への生活支援の重要な視点④

4) 地域における生活の個別支援

- 障害ケアマネジメントは、一人ひとりの利用者の生活を知り、抱えている課題や困難を理解し、利用者を取り巻く家族や各種の社会資源、地域社会との関りの中で個別支援をする。

そのため、障害者に身近な市町村が中心となって各種行政サービスや社会経済活動への参加の機会を提供し、地域社会において質の高い生活が継続できるように支援する。

障害者への生活支援の重要な視点⑤

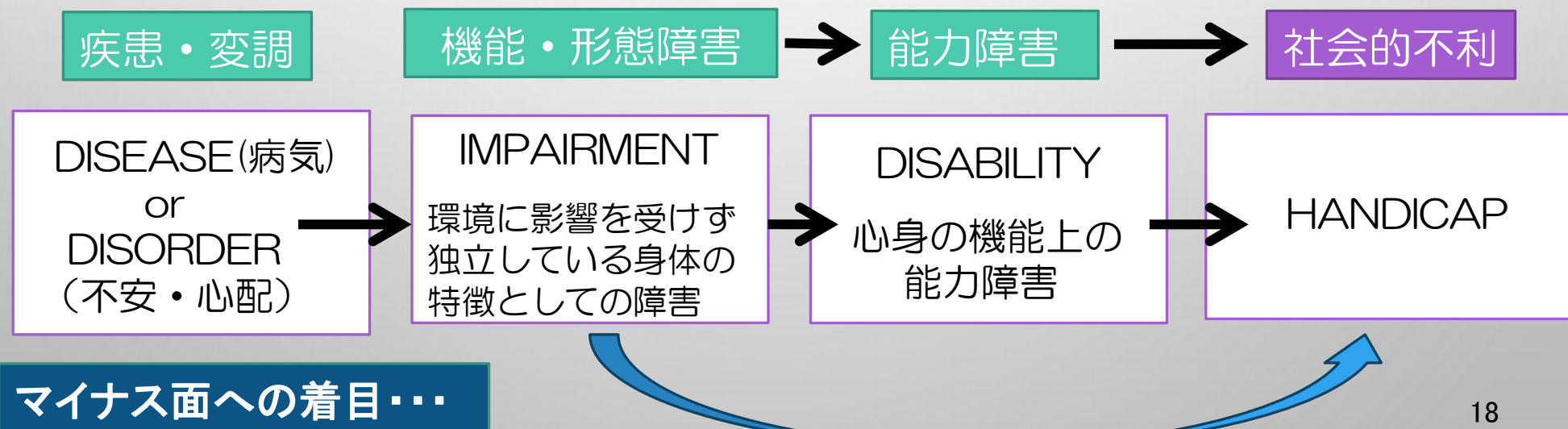
5) エンパワメントの視点による支援

- 障害者ケアマネジメントは、利用者が自己の課題を解決するにあたり、自分が主体者であることを自覚し、自分自身に自信がもてるように、利用者の力を高めていくエンパワメントの視点で支援していくことが必要である。

ICIDH（日本語：国際障害分類）

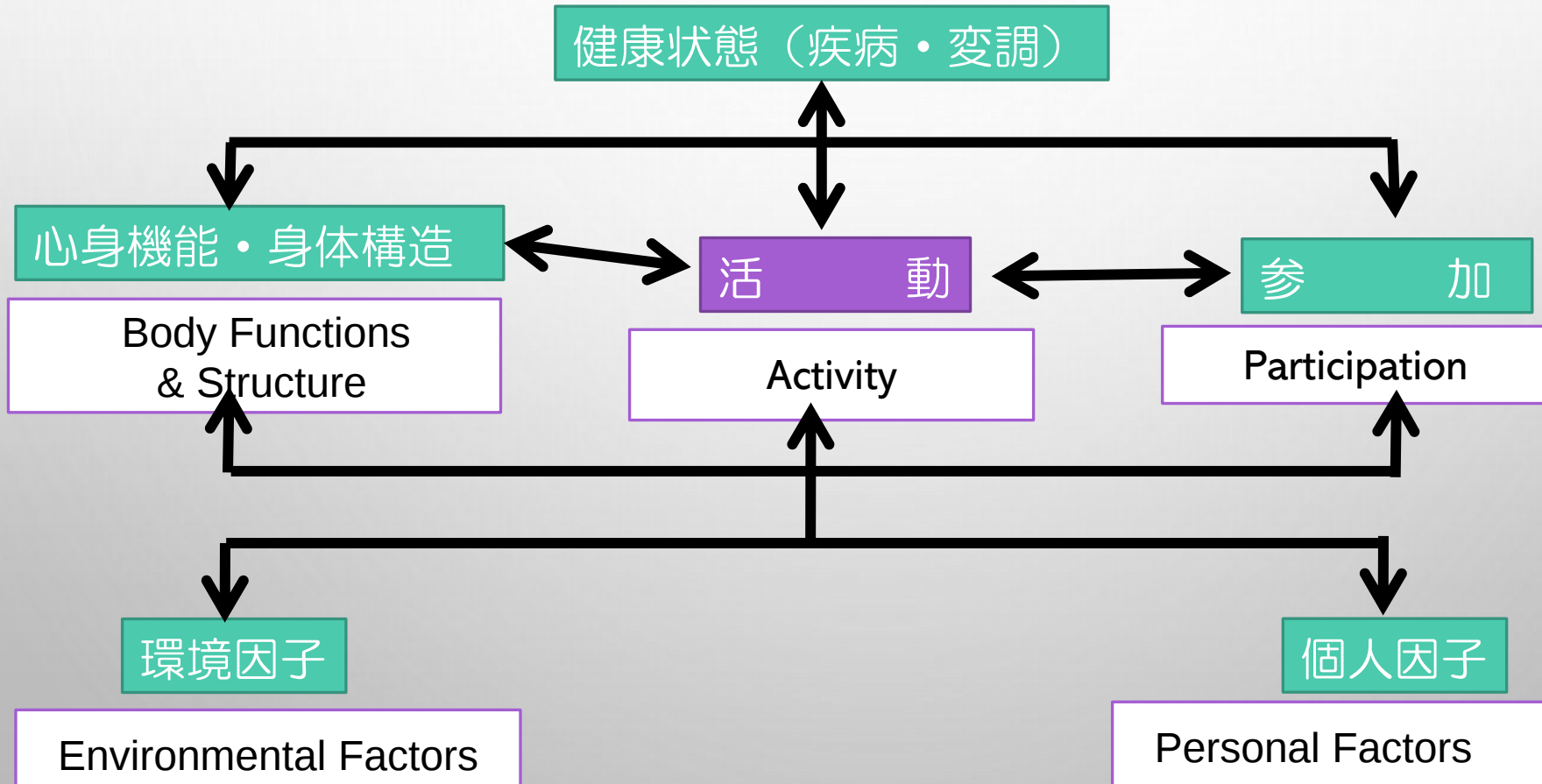
国際障害分類（ICFの前身となった医療基準で、1980年にWHOによって発表）

→機能障害・能力障害・社会的不利の国際分類・疾患・変調が原因となって機能・形態障害が起こり、それから能力障害が生じ、それが社会的不利を起こすというもの



I C F

- ・ 国際生活機能分類→生活機能・障害・健康の国際分類
- ・ 活動→生活行為、生活上の目的をもち、一連の動作からなる具体的な行為のこと
- ・ 参加→家庭や社会に寄与し、そこで役割を果たすことである。



ICIDHからICFへの変化

- ICIDHは疾患や外傷などを対象としていたものから
ICFはそれらに妊娠や加齢やストレス状態などを加えた。
- 障害のある人に特定した分類でなく **すべての人に関する分類**になった。

医学モデル・社会モデル

社会モデル

医学モデル

ディスアビリティ
Disabilities
心身の機能上の能力障害

インペアメント
Impairments
環境に影響を受けず独立して
いる身体の特徴としての障害

社会環境
Social
Environments

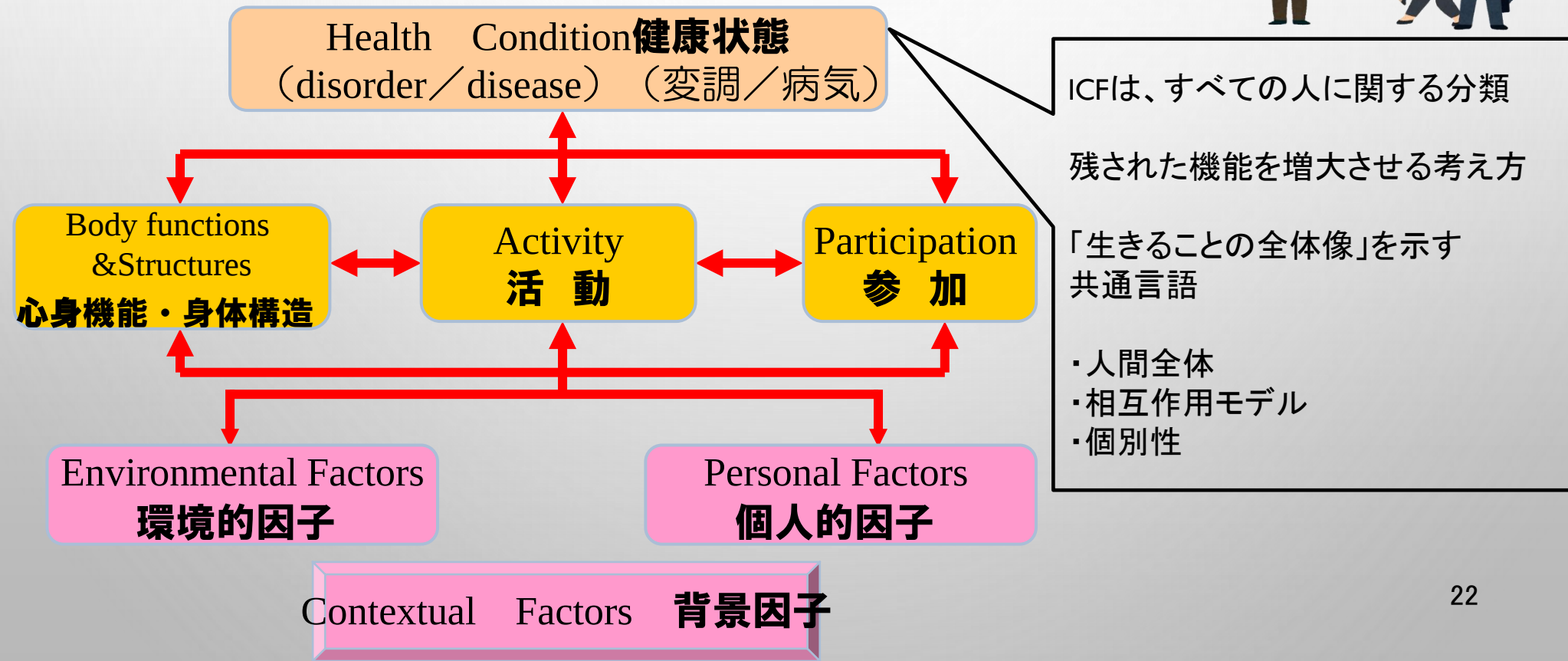


障害者権利条約前文

「障害（disability）が機能障害（impairment）のある人と**態度**及び環境に関する障壁との相互作用であって、機能障害のある人が他の者との平等を基礎として社会に完全かつ効果的に参加することを妨げるものから生ずることを認め・・・」

ICF 国際障害分類の障害構造

- ICFはこれらの2つの対立するモデル（医学モデルと社会モデル）の統合に基づいている。生活機能のさまざまな観点の統合を図る上で、「生物・心理・社会的」アプローチを用いる。したがってICFが意図しているのは、1つの統合を成し遂げ、それによって生物学的、個人的、社会的観点における、健康に関する異なる観点の首尾一貫した見方を提供することである。



背景因子（ICFにおいて重要な要素）

- これ自体は生活機能ではないが、生活機能に大きな影響を与え、しばしばその低下の原因となるもの。
- 背景因子には、環境的因子と個人的因子の2つからなる。

環境的因子

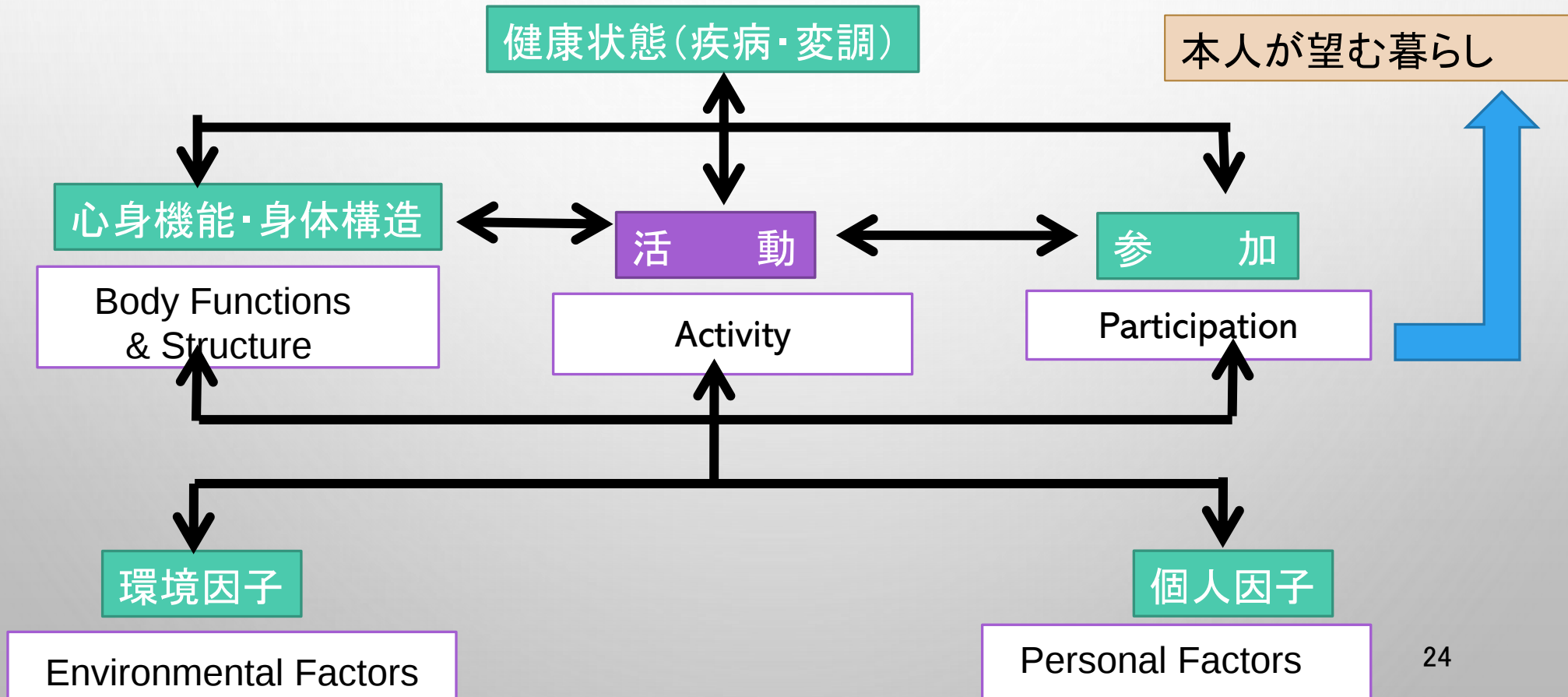
- 建物・道路・交通公共機関・自然環境
- 人的な環境（家族・友人・仕事の間関係など）
- 態度や社会意識として環境（社会がその人にどう対応するかなど）
- 制度的な環境（医療・福祉・介護・教育などのサービス・制度・政策）

個人的因子

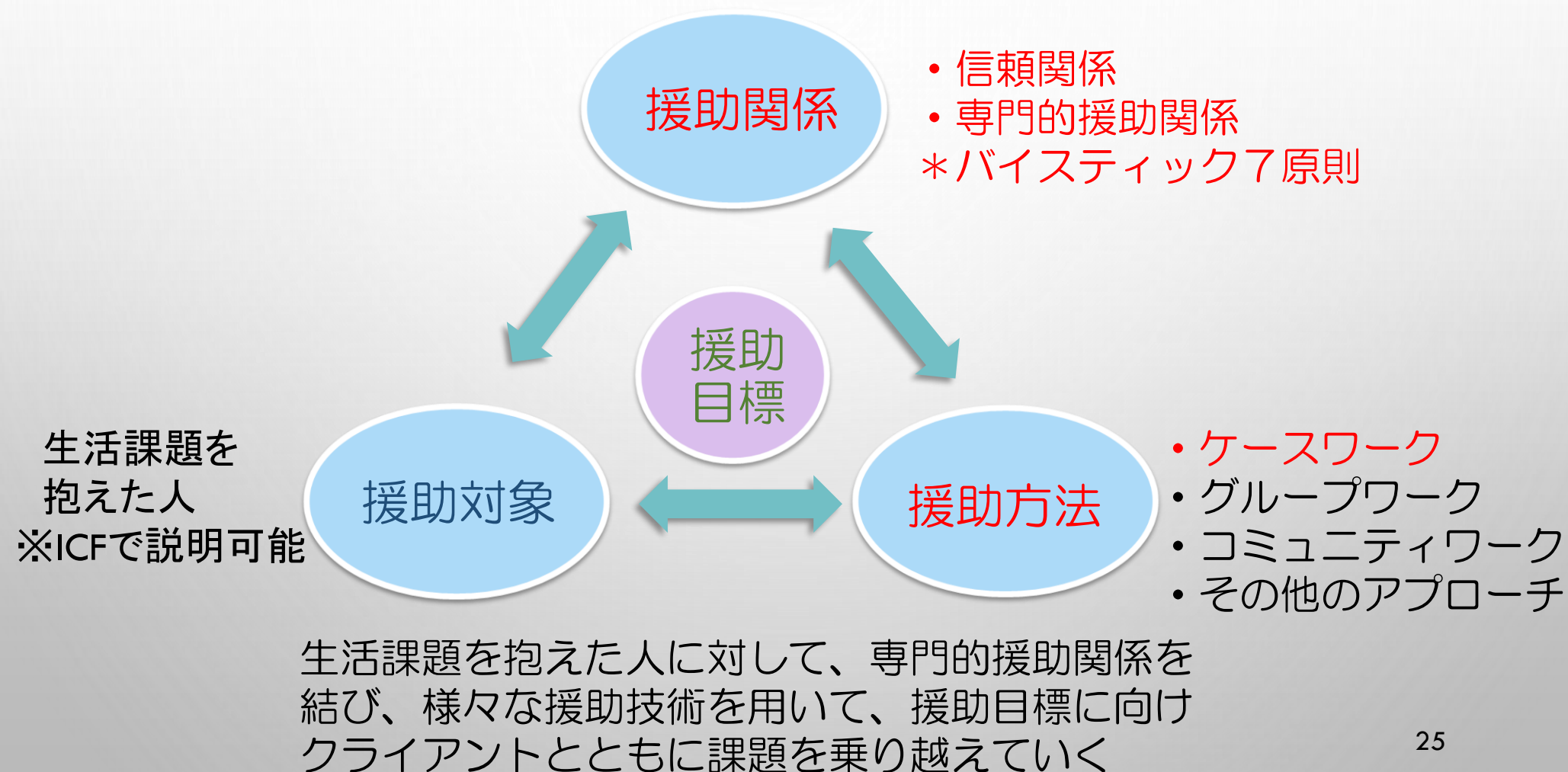
- 年齢・性別・民族
 - 生活歴・価値観・ライフスタイル
 - コーピングストラテジー
（困難に対処し解決する方法）
- ストレngthsやレジリエンスとも呼ぶ
- 個性というものに非常に近いもの

I C F + 本人の想い

- 障害に捕らわれることなく、何が社会参加への障害・促進要因になっているかを援助者の主観なく客観的にとらえられるツールとして活用する
- 本人が望んでいるかどうかは本人に想いを聴くことが大切



相談援助の構成（相談援助の理解のために）



バイステックの7原則

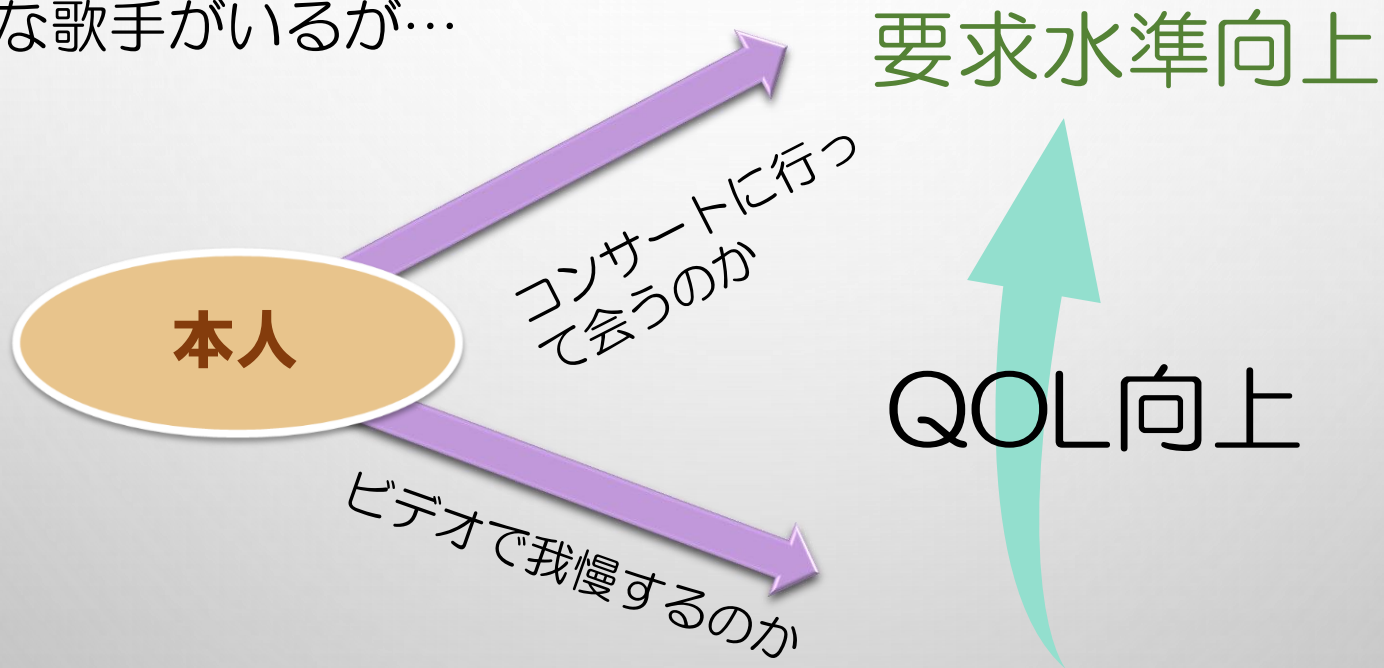
F.P.BIESTEK『ケースワークの援助関係』（1957）

- ①個別化の原則 クライアントを個人としてとらえる。
- ②意図的な感情表現尊重の原則 クライアントの感情表現を大切にする。
- ③統制された情緒的関与の原則 援助者は自分の感情を自覚して吟味する。
- ④受容の原則 受け止める。
- ⑤非審判的態度の原則 クライアントを一方向的に非難しない。
- ⑥自己決定尊重の原則 クライアントの自己決定を促して尊重する。
- ⑦秘密保持の原則 秘密を保持して信頼を醸成する。

生活者の視点（QOLの重視）

人生の質を高めるための支援に積極的であること

好きな歌手がいるが…



生活の質の向上とは

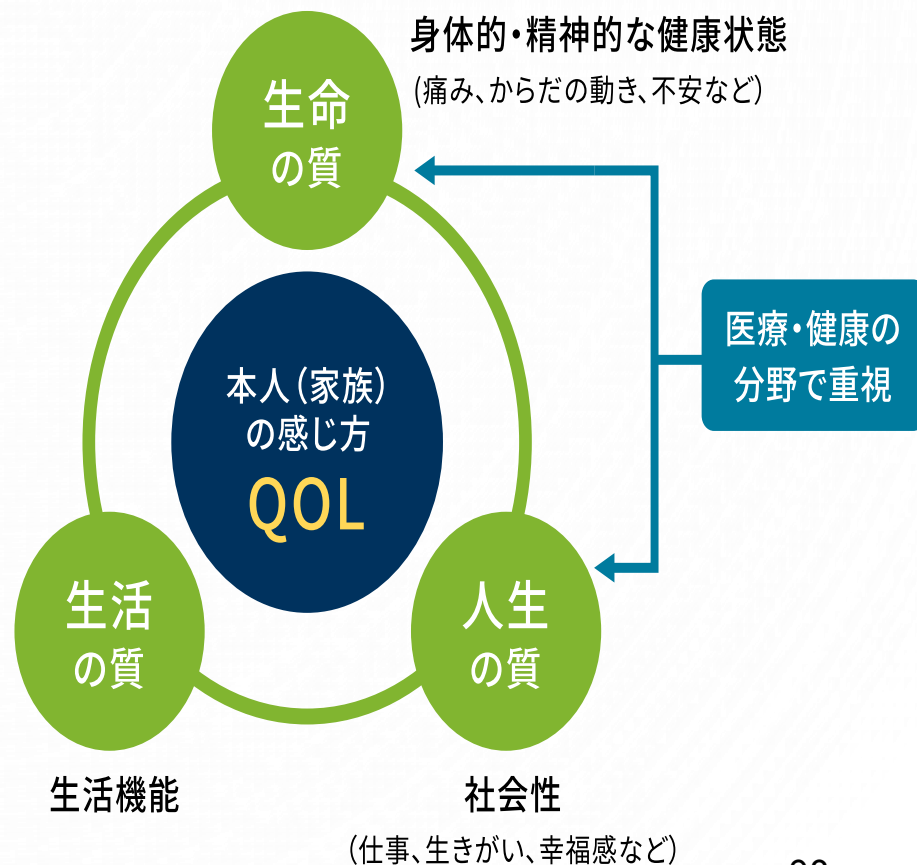
ただ生きることは
なく、よりよく生き
ること
By ソクラテス

LIFEは、①生命、命、生存、②生計、暮らし、暮らし向き、③人生、生涯、生き方、生き様という三重構造（森岡ほか 1993）

- ・ 支援者は利用者の要求水準を向上させるために、利用者と常に刺激し合い、より質の高い生き方をともに考える姿勢が求められる。

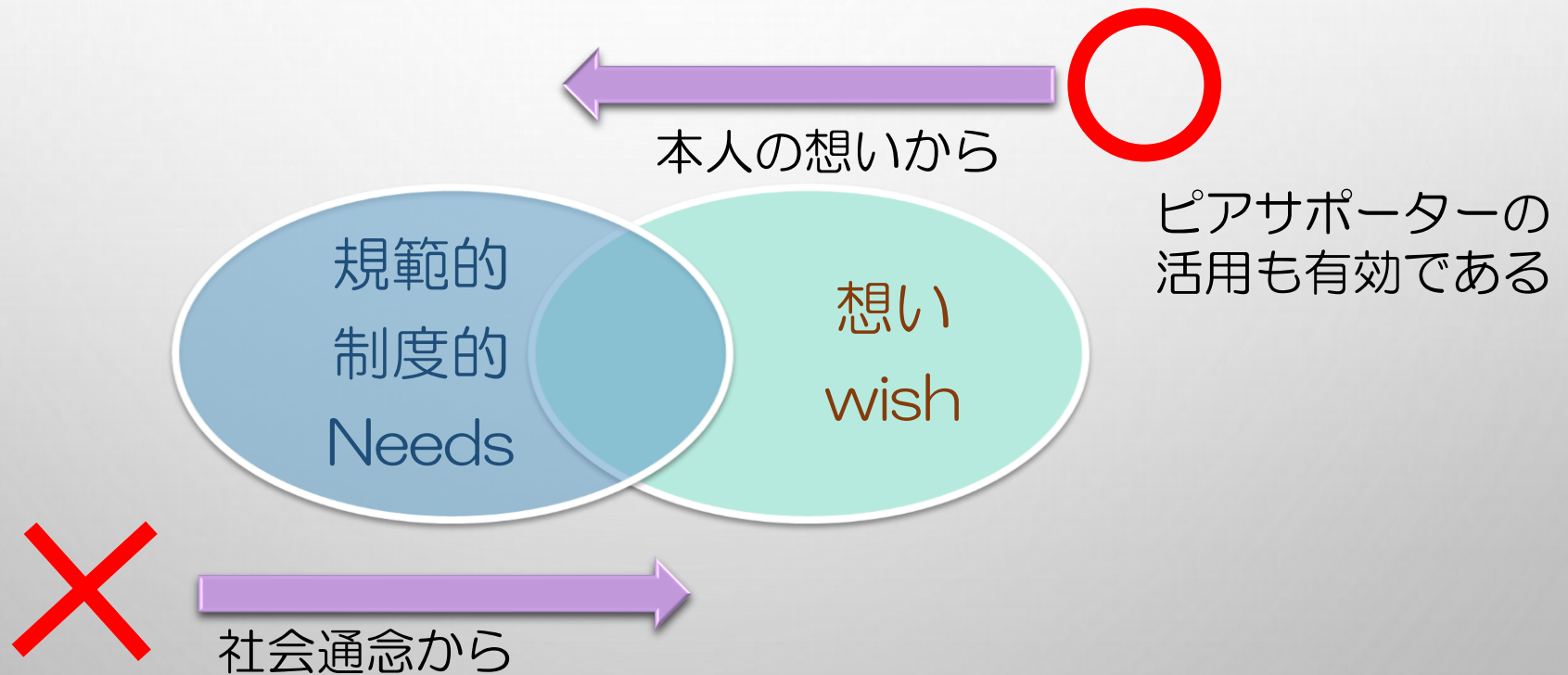
- ・ 何より大切なのは、「**本人が何をもって幸せとするか、何を大切にしているのか**」を知ること

- ・ QOL向上を意図した継続的な支援が行われないと、利用者の自己肯定感を下げ、要求水準が上がらないため、サービスの水準も下がるという悪循環が起こる。



本人主体の視点（本人中心）

社会通念や既存の制度から障害を捉えるのではなく、常に本人に寄り添って「想い」を捉え、主体性を引き出す。



なぜ、本人主体の視点なのか

課題の解決からではなく、本人が出来ること、したいこと、好きなことに焦点をあてた支援を進める中でこそ、本人が主体的に課題を克服することができる。

その際に重要なのが本人の自己効力感の向上であり、周囲の肯定的な態度の中で、したいことに近づくために小さな成功を積み重ね、**あるいは、失敗を経験することでの学びを経て、結果が形となって表れることを知ることで前進が始まる。**

わずかな前進であっても、本人の自己効力感の向上が周囲にパワーをもたらし、そのパワーがさらに本人の社会への影響力を増大させていく。その始まりはすべて本人の思いからである。

本人主体の課題とは何か

制度上のサービスを適用することが通例となった温情主義の中で、どのようにして思いから出発した支援ができるか。

思いが読み取りづらい本人に、思いを表明していただく関わり方を支援者だけの主導でなく進めるにはどうするのか。

本人中心とは個人主義でも、支援者が本人をおもんばかることでもなく、「自己決定支援等を活用して、本人が関係者の支援を踏まえて・・・する」ことである（北野2013）。

そのためには、支援者を含む社会全体との相互エンパワメント関係が展開されなければならない（同）。

あくまで本人を中心に据えた会議や本人の最善の利益に即した生活支援の実施により粘り強く本人のパワーを引き出していく。

ミスポジション論

～本人中心をつらぬける具体的方法として～

希望や夢と現実のズレがわかること

リフレーミングの視点を持つこと

「私」を主語とした100文字要約が書けること

大きな目標が立てられ、それに向かうためのインパクトゴールが設定でき、ブレイクダウンによってケア計画が立てられること

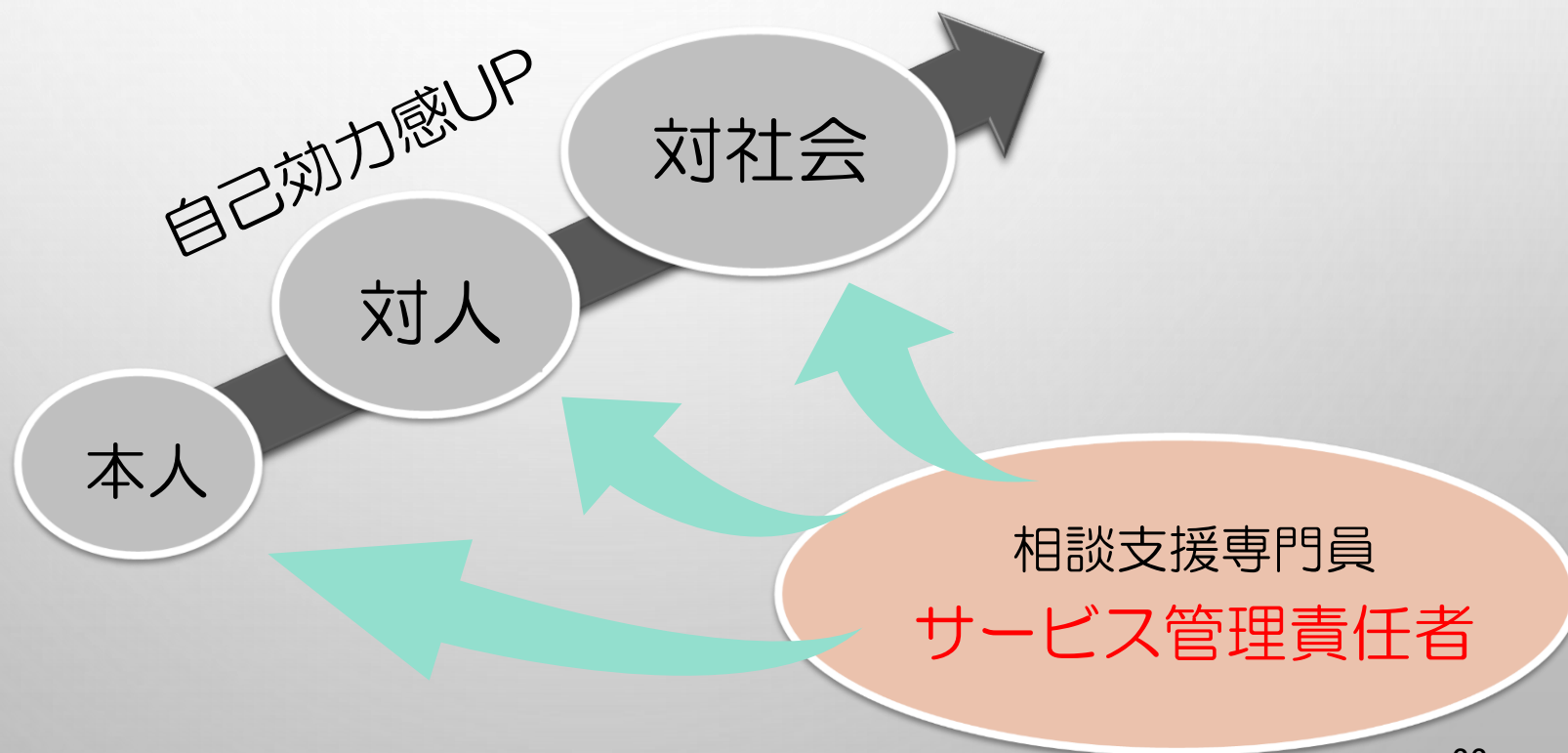
本人の運転する車に乗る覚悟ができること

本人と環境のストレングスがわかること

本人の役割を明確にし、一般資源活用からケア計画が立てられること

エンパワメントの視点（当事者による社会変革）

本人が周囲の人々や社会に働き掛け、社会を変えることで課題を解決していくために、環境に働き掛ける。



エンパワメントとは何か

- ・「パワーの欠如した状態(POWERLESSNESS)
個人、あるいはグループの目標を達成するために資源を獲得し、活用できないこと、価値ある社会的役割を遂行するための情報、知識、スキル、物質をマネジメントすることができないこと」(SOLOMON,1976:28)
- ・パワーにはレベルが存在する。
 - ①個人的（個人的な事柄を解決したり影響を与える能力に関する感情や認知）
 - ②対人関係的（問題の解決を促す他者との経験）
 - ③そして環境的（セルフヘルプの努力を促進したり妨害する社会的制度）3つのレベルである(GUITIERREZら1998:10)
- ・ソーシャルワークは
社会変革と社会開発、社会的結束及び人々のエンパワメントと解放を促進する、実践に基づいた専門職であり学問である。
(ソーシャルワーク専門職のグローバル定義2014)

なぜ、エンパワメント・アプローチなのか

- ①支援者は本人が主体性をもって自ら生きづらさを解消する行動をとるよう働き掛けている。
- ②支援者は本人が地域社会との関係をつくるために、地域の社会資源を活用するよう働き掛けている。
- ③批判的意識を持つ支援者が本人とともに他者との関係改善や地域の変革に臨む強い姿勢を示している。
- ④支援者は、本人との対等性に配慮しながら、パートナーシップに基づいた働き掛けを行う。
- ⑤本人を信頼したパートナーシップにより、パワーの交互作用が生じ、支援者も自己効力感を高めている。

ピアカウンセリングや自立生活プログラムなど利用者の精神的サポートや自立のための情報提供を効果的に行う手法はエンパワメントの有力な手法である。

ストレングスとエンパワメント

ストレングスとエンパワメントは似た概念なので整理が必要となることがある。学説や立場により解釈が異なることを前提として大まかな説明を行う。

- スtrenグス「人間の中にある逆境や苦難を乗り越えていく力，強さ」狭間(2001)である。ラップの定義では「エンパワメントとは，精神障害者が願望し，クライアントと専門家が共同して達成に当たる状態」として使用している。ストレングスモデルそれ自体がその過程を具体化する方法と視点である。
- エンパワメントをパワーが備わった状態とし、ストレングスをその状態となるための方法や視点として整理している。
- スtrenグスモデルは本人や環境の持つ強さに着目し、その視点を活かして支援を組み立てることで、パワーレスな状況から脱し、高い自己肯定感を得てエンパワメントに至る方法である。

ストレングスモデルの概念

- スtrenグスモデルでは「すべての人は目標や自信を有しており、またすべての環境には資源や人材機会が内在している」とみる。
⇒ 私たちが問題より可能性を。。
強制ではなく選択を。。
病気より健康を。。
- 障害者出来なくなったことに注目するのではなく、本来 すべての人が有しているであろう、様々な資源に着目し、それらを活かす視点であり概念である。

ストレングス・モデル

カンザスで発展した包括的なケースマネジメントの技法・システム

【歴史】

脱施設化とホームレス化⇒ケースマネジメント

【哲学】

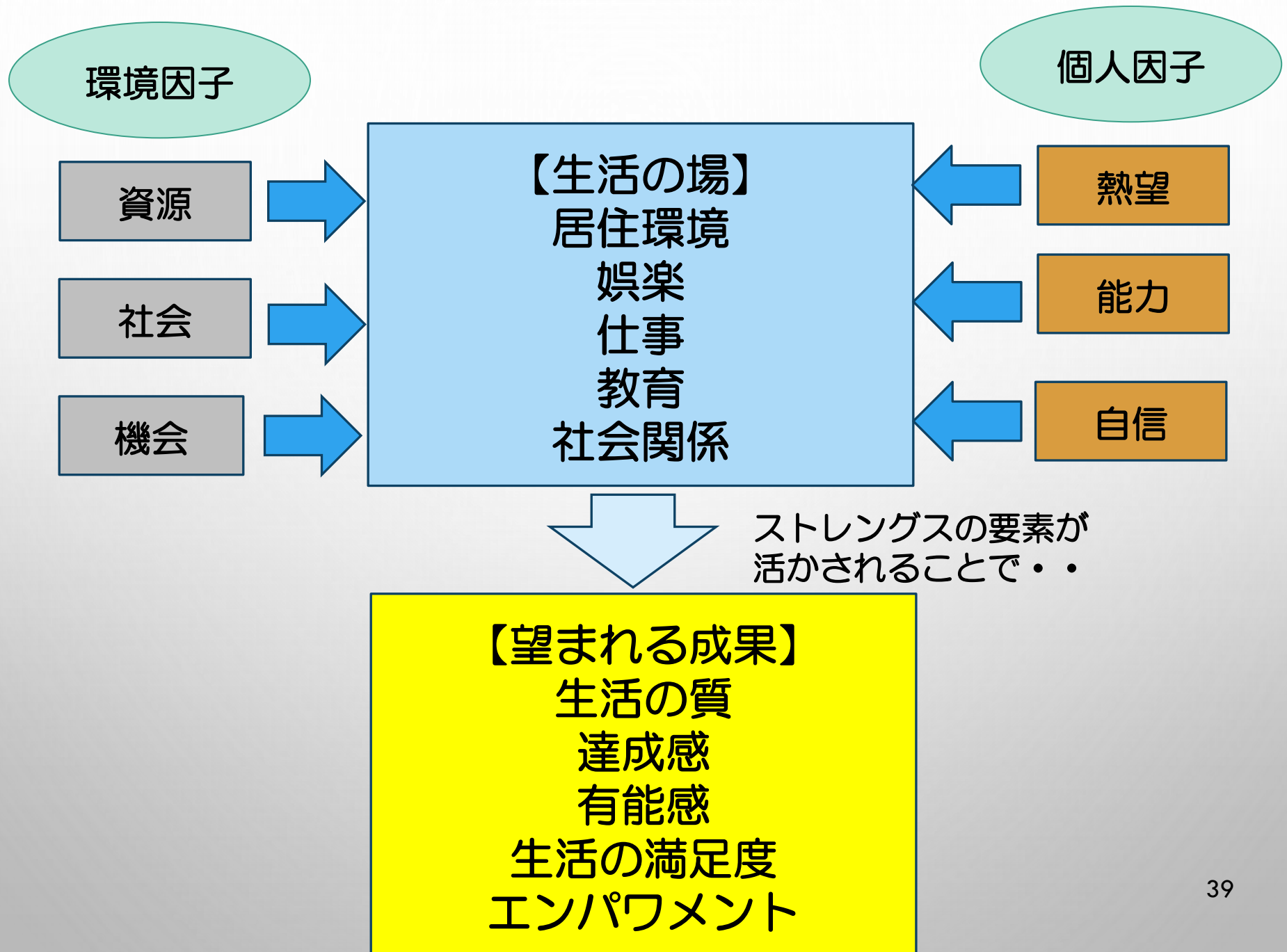
その人を見る方法であり、そして、その方法はその人との関係性のなかにある

【方法とツール】

- スtrenグスアセスメント
- パーソナルリカバリープラン
- グループスーパービジョン
- フィールドメンタリング
- スtrenグスアプローチ
- スtrenグスモデル
- リカバリー
- エンパワメント

【原則】

1. 人々はリカバリーし、生活を改善し高めることができる。
2. 焦点は欠陥ではなく、個人のストレングス（長所）である。
3. クライアントこそが支援関係の監督者である。
4. 関係性が根本であり本質である。
5. われわれの仕事の主要な場所は地域である。
6. 地域を資源のオアシスとしてとらえる。



● ストレングスの4つのタイプ

【才能・技能】

その人が持っている才能や技能のこと。
「生け花を教えることができる」
「ギターが弾ける」
「ホームページを作ることができる」
など・・

【関心・願望】

その人が関心を持っているもの、
強く願望しているもののこと。
ストレングスモデルでは最も重要視
「海外旅行に行きたい」「料理を教え
たい」「漫画家になりたい」など・・

【環境】

その人の持っている資産・人間関係・
近隣の地域資源など、
その人の外にあって活用できるもの。
「お金には困っていない」「親戚のお
じさんが近所で見守ってくれる」「商
店街が近くにある」など・・

【性質・性格】

その人がどういう人かを表すもの。
「ユーモアがある」「人懐っこい」
「努力家である」など・・・

ストレングスが見つからない？

・リフレーミング【REFRAMING】

事実に対して与えている意味付け（枠＝FRAME）を変え、異なる見方で捉え直す手法。

飽きっぽい → 『好奇心旺盛な』『素直な』

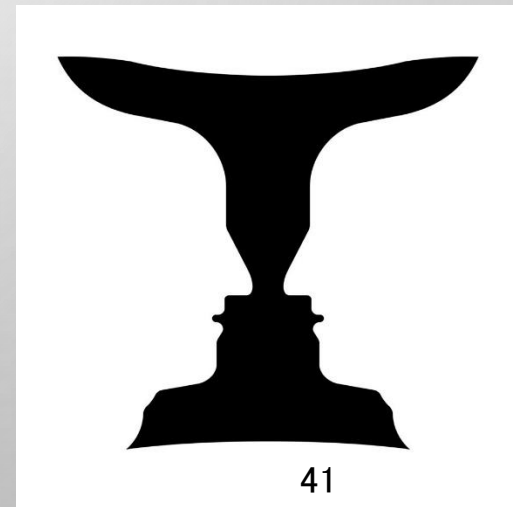
浮き沈みが激しい → 『表情豊かな』『繊細な』

集中できない → 『視野が広い』『気が回る』

おっちょこちょい → 何だと思いませんか？？

長所と短所は紙一重です。

ストレングスは誰の中にも存在します！



まとめ

この講義で話してきたことをまとめると…

- 支援の目標は一人一人の幸福であり、本人のエンパワメントと権利擁護にある。
- 本人主体の視点（本人中心）は、想いに沿った支援である。
想いが見えなくてもそれを引き出すことから始める。
- そのためにエンパワメント・ストレングスのアプローチを基本に本人とのパートナーシップを形成する。
- 本人が生きることの価値を感じていけるように多様な人たちとの協働を常に模索し続ける。そして、リカバリーを信じ、個別性を大切に関わっていく道程。

～どうか僕を幸福にしようとしなないでください。

それはぼくにまかせてください～ BY アンドレ・レニエ